

ちばの地域福祉

「年頭のご挨拶」

千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会会長
長生ひなた 渋沢 茂

新年あけましておめでとうございます。旧年中は私ども千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会の活動にご理解とご支援を賜りありがとうございました。

官庁が仕事を終えた後の12月29日夜にこの稿を書いています。今日から1週間ほど世間は年末年始のお休みになります。過ぎてきた年を振り返り、新しい年の始まりを祝う、1年の中でも特別な時期です。家族そろって夜更かしをして紅白歌合戦を観て、新年になると初詣に行ったり、親戚が集まって箱根駅伝を観ながら新年のあいさつをしたりする人が多くいるのではないのでしょうか。遠方からも実家に帰省して家族が集まってのんびりと過ごす時間が多い時期です。

ですから、家族がいない人、一緒にいても落ち着いて過ごすことが出来ない人はそのことを身に染みて感じてしまう、寂しく辛い時期です。定まった居所がない人、夫婦間のトラブルを抱えた人、障害のある子どもの心配をしながら入院中の人、一人暮らしで行く場所のない人、おせち料理どころか日々食べるものにも困っている人…。年末年始の時期を不安な気持ちで過ごす方も沢山いらっしゃると思います。

近年、「自助、互助、共助、公助」の視点を持って地域包括ケアシステムを構築することが勧められています。障害や生活困窮、消費生活や児童の分野でもネットワークを創って地域の課題を吸収することが目されています。その時に、社会から孤立しがちな方々の居場所を確保することを考えなければならないと思います。互助や共助の中に入るのが難しい方が多くいらっしゃるからです。

昨年は私たち、福祉に関わる者にとって忘れられない、忘れてはならない事件が起こりました。ヒトラーのユダヤ人虐殺や、民話の「姥捨て山」を思わせるような事件でした。

事件を起こした彼は当該の施設で働いた経験があるそうです。彼は施設で勤めていた時に何を感じていたのでしょうか、一人一人の、障害を持った方とどのように付き合っていたのでしょうか。それがとても気になりました。

私たちも、あらためてそれぞれに仕事のあり方を見直さなければならないのではないかと思います。目の前の方々とどんな風に付き合っているのだろうか。お一人お一人の方の尊厳を守ることが出来ているのかと。

生きる意味がない人は一人もいません。辛いことがあっても哀しいことがあっても、人は生きていきます。

今年も沢山の方とお付き合いをさせていただきたいと思っています。

本年もよろしく願いいたします。

ちから ちばの福祉力・社会資源

公益社団法人日本オストミー協会千葉県支部（千葉県オストミー協会）の活動

オストメイト、オストミー協会とは

オストミー協会とは膀胱または直腸の機能障害者の当事者団体です。

主に膀胱がんや直腸がんが原因で膀胱や直腸を切除し排泄口を人工的に腹部に造設しています。今千葉県に9,200人日本全国では20万人のオストメイトがいます。排泄のコントロールができないというハンディキャップがありますが、最近では装具が進歩しており、自分に合った装具を付けていれば排泄物が漏れたりすることは殆どありませんので、訓練すれば社会生活に適應できます。しかし自分に合った適切な装具を身につけそれに慣れるまでは、ただれ、かぶれ、等の皮膚障害により、心身ともに苦痛にさいなまれているのが現状です。排泄に関することだけに、公表を嫌う傾向も強く、外見からは判断しにくい障害者であるために、一般に理解されにくいということもあります。手術を行ってくれた病院の方でも治療は病院だが相談は仲間同士がよいという考えが主流となっており、オストメイトも仲間同士で助け合おうと1969年に全国組織の日本オストミー協会が出来、2011年4月から公益社団法人として認定されました。会員は全国で9千人、千葉県支部では428人になっています。

千葉県支部では、県の委託を受けて「オストメイトの社会適應訓練事業」を行っています。「オストメイトの社会適應訓練事業」は県内各地で年に5～6回、医師、皮膚・排泄ケア認定看護師を講師とする講習会と装具メーカーによる展示相談会を開催しています。その際傾聴の講習を受けた先輩オストメイトが生活上の悩みの相談を受けるようにしています。事務所でも相談を受けていますが、各地域でオストメイトの会を立ち上げ、定期的に相談会を開催するよう勧めています。

オストメイトの要望

千葉県支部ではオストメイトの不安解消のため、オストメイト用トイレの設置要望、災害時の避難所に装具やオストメイト対応の災害用トイレの保管・備蓄を要望しております。オストメイト用トイレは次第に増えてきており、市によってはトイレの場所を示すマップを作製しているところもあります。

また、高齢でセルフケアの出来ないオストメイトのために、介護福祉士、ヘルパーがケアできるよう皮膚・排泄ケア認定看護師を講師として研修を行っています。

日本オストメイト協会千葉県支部

〒260-0026 千葉市中央区千葉港 4-3 千葉県社会福祉センター3F
☎043-309-7571 FAX043-309-7572

ちば・元気印！～こんなひとたち、見つけた～

なのはな当事者研究会!!

今回は、地域の交流施設で、語り場として活動をしている
 なのはな当事者研究会を、発起人であり司会・進行を担っている樋口聡子氏に
 得意のイラストを使って、ご紹介いただきます。

～ なのはな当事者研究会 ～

☆ 毎月第2(土) 10:00～17:00
 (第3(土)に変更になる場合もあり)

☆ 君津市生涯学習交流センター
 君津市久保2丁目13-2
 TEL 0439-150-3980

えびだ! 研究してみよう!!

★ 弱さの情報を提供 (苦勞のプロフィール)

★ お互いの経馬を出し合う

★ 生活情報 (経馬、失敗、成功)

★ 新しい自分の助け方を見つめよう!

★ 試み、更馬、再検討、成功、共有、分かち合い

なのはな当事者研究会
 連絡先 090-3434-9630 (三上)
 090-4627-1388 (樋口)

♥とっても温もりのある雰囲気、地域の大切な『よりどころ』となっています。皆さん、是非お越しください。心よりお待ちしております♥



ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

だれもが住みやすい街づくりフォーラム from 千葉

「共生社会に向けて」

～あのゆがんだ障害者観はどこからきたのか
今私たちにできることは何か～

- ◆日時 平成29年1月20日（金）10:30～15:30
- ◆会場 千葉市ハーモニープラザ 男女共同参画センター3F ホール
（千葉市中央区千葉寺町 1208-2 ☎043-209-8771）

◆内容

基調発言（10:40～11:00）

講師 久保 厚子氏（全日本手をつなぐ育成会連合会会長）

基調講演（11:00～12:00）

「あのゆがんだ障害者観はどこからきたのか、今私たちにできることは何か」

講師 増田 樹郎氏（愛知教育大学名誉教授・特別教授）

1分間トーク（13:00～14:00）

討論（14:00～15:15）

「共生社会に向けて」

発言者 黒田 良孝氏（呼吸器ユーザー当事者）

景山 朋子氏（千葉リハビリテーションセンター療育支援部長）

藤尾 健二氏（千葉障害者就業・生活支援センター連絡協議会会長）

助言者 久保 厚子氏（前掲）

コーディネーター 増田 樹郎氏（前掲）

【主催】だれもが住みやすい街づくりフォーラム from 千葉 実行委員会
千葉県手をつなぐ育成会事業所協議会

【参加費】2000円（資料代）

【問合せ】だれもが住みやすい街づくりフォーラム from 千葉実行委員会事務局
（NPO法人ぽぴあ内）溝口、石井
〒299-0257 袖ヶ浦市神納 1-19-7 ☎0438-60-7521

発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：ひだまり（安房圏域）館山市山本 1155

TEL 0470-28-5667 FAX 0470-28-5668

編集：長生ひなた（長生圏域）茂原市長尾 2694

TEL 0475-22-7859 FAX 0475-22-7844

※内容についてのお問い合わせは、長生ひなた（担当：渋沢）までお願いします。